

A 語句と読み

- (1) 蚌＝ぼう／どぶがい（二枚貝） 鷸＝いつ／しぎ（くちばしの長い鳥）／★毎年ここから出る
- (2) 日に当てる（甲羅を干す）
- (3) とらふ／捕らえる
- (4) よくよく考えること
- (5) 持ちこたえる。にらみ合ったまま動かない。
- (6) そこで（燕を討つのを）とりやめた／「乃ち」＝そこで・そのまま

B 句法

- (7) 再読文字「方」／「まさニ～ス」＝ちょうど～する・今～したところだ
- (8) 再読文字「且」／「まさニ～ントス」＝今にも～しようとする／★①の「方」と混ぜて出る
- (9) 仮定条件（もし～ないならば）／「ず」＋「ば」が濁った形

(10) どうしても～しようしない（進んで～しない）／×
「～できない」ではない

(11) 使役の助動詞「しむ」／～させる

C 何を・誰を指すか

- (12) 蚌（どぶがい）の肉
- (13) 鷸（しぎ）のくちばし
- (14) 蚌（どぶがい）と鷸（しぎ）
- (15) 蚌と鷸の両方

D 口語訳

- (16) しぎがどぶがいの肉をついばんだ。どぶがいは殻を閉じて、しぎのくちばしをはさんだ。
- (17) 今日雨が降らず、明日も雨が降らなければ、（水が干上がって）死んだどぶがいができるだろう。
- (18) 漁師がたやすく、両方いっしょに捕らえてしまった。
- (19) 私は、強国の秦が（この話の）漁師になるのではないかと恐れるのです。

E 内容・記述（解答例）

- (20) たがいに相手を放そうとせず、争い続けていたから。(二十三字)
- (21) 蚌と鷸＝争い合う燕と趙／漁父＝労せずに利益を得る強国の秦
- (22) 恵王が蘇代の言い分をもっともだと認め、燕を討つのをとりやめたということ。
- (23) 二者が争っているすきに、第三者が苦勞せずに利益を横取りすることのたとえ。

F 故事・文学史

- (24) 『戦国策』（燕策）／戦国時代の遊説家（説客）の言論・策略を、国ごとに集めた書物
- (25) 燕（えん）
- (26) 鷸蚌の争ひ（いつぼうのあらそい）／争った二者のほうから見た言い方

【現代語訳（全文）】

趙は今にも燕を討とうとしていた。蘇代が燕のために（趙の）恵王に言うには、「いま私が参るときに易水を通りましたところ、どぶがいがちょうど出てきて甲羅を干していました。そこへしぎがその肉をついばみました。どぶがいは殻を閉じて、しぎのくちばしをはさみました。しぎが言うには、『今日雨が降らず、明日も雨が降らなければ、（水が干上がって）死んだどぶがいができるだろう』と。どぶがいもまたしぎに言うには、『今日（くちばしが）抜けず、明日も抜けなければ、死んだしぎができるだろう』と。両者はどちらも相手を放そうとしませんでした。（そこへ通りかかった）漁師が、たやすく両方いっしょに捕らえてしまいました。

いま趙は今にも燕を討とうとしています。燕と趙が長くにらみ合って、それによって多くの民を疲れさせるならば、私は、強国の秦が漁師になるのではないかと恐れるのです。どうか王よ、このことをよくよくお考えください」と。恵王は「よろしい」と言って、そこで（燕を討つのを）とりやめた。